

フォーラム会場のスクリーンに表示された応援メッセージの一部です。

先進的な取り組みなのですね

応援したいです！

身体を動かすきっかけになる

素敵な取り組みですね

使いたくなるデザインのトイレですね

発想がスゴイです

ありそうで無かったアプリ

効果測定は重要ですね

住み良い街づくりですね

ITツールの活用がスゴイ

フレイルの問題に興味があります

IT×かかしは初耳です

新しい取り組みどんどんされてますね

世界にも魅力が伝わってますね！

女性活躍応援したいです

人、自然、食など、資源が豊富ですね

先駆け!!

高校生の活動ステキです

住み続けたいまちランキング凄いです

学食からの発信の取り組みいいですね



website

主催



共催

QUINTBRIDGE

後援



大阪府政策企画部企画室連携課 osaka_SDGs@gbox.pref.osaka.lg.jp



OSAKA KANSAI SDGs Forum



HYOGO



KYOTO



NARA



SHIGA



WAKAYAMA



OSAKA

OSAKA KANSAI SDGs Forum

[日時] 令和6年11月20日(水曜日)

[会場] QUINTBRIDGE(大阪市都島区東野田町4丁目15番82号)

[参加者数] 会場138名／オンライン74名



大阪府知事 吉村 洋文

今回のフォーラムは、SDGs達成への貢献をめざす大阪・関西万博を翌年に控え、関西2府4県から登壇いただき開催いたしました。「誰一人取り残さない」ことを理念とするSDGsのめざす姿は、世界中の一人一人の幸せを考え、「いのち輝く未来社会」をめざす万博のテーマと合致します。大阪府は万博開催都市として、世界とともにSDGsの達成に貢献していく「SDGs先進都市」の実現に向け取り組んでおり、皆様と、「大阪・関西から世界を引っ張っていく」という強い想いを共通のものにしたいと考えています。

来年度は、このフォーラムを拡大し、「SDGs全国フォーラム」として、万博会場内で開催します。万博というまたとない機会を活かし、日本全国、さらには海外の様々なステークホルダーと知見を共有し、発信することで、SDGsの達成に貢献してまいりますので、ぜひご期待ください。SDGsをもう一歩先に進め、大阪・関西から世界をリードしていきましょう。



一般財団法人 村上財団 代表理事
村上 フレンツェル 玲

この度は、「OSAKA KANSAI SDGs Forum」の開催、誠にありがとうございます。私たち村上財団は、社会課題の解決に取り組む非営利団体へのサポートを通して、その活動を活性化し、持続可能なものにしていきたいと考えております。そして、多くの方々に活動を知ってもらい、支援の輪が広がっていくことで、SDGsの達成に貢献することを期待しております。このフォーラムでは、我々が大阪府とともに、昨年度サポートした5つの団体が登壇します。どの団体も、ユニークな活動で地域の課題解決に取り組んでいらっしゃいます。是非、大阪・関西からSDGs達成に向けたアクションを広げていきましょう。



SDGs-1グランプリ2021 優勝
祇園(吉本興業)

笑いとSDGsをテーマに、漫才を披露いただきました。

特別講演

地方創生SDGsの取組について

内閣府地方創生推進事務局
参事官補佐

北本 修平



内閣府では地方創生SDGsの取組として、これまで10年の取組を地方創生1.0として区切りを設け、2024年度より今後10年間は地方創生2.0として対応していきます。地方創生2.0では、まず石破内閣において「新しい地方経済・生活環境創生本部」を設置しました。「地方こそ成長の主役」との発想に基づき、付加価値創出型の新しい地方経済の創生や、デジタル・新技術の徹底活用を実施してまいります。内閣府ではSDGs未来都市の選定や、「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」の運営を行っています。本年度は、対面マッチングイベント「官民MEET」を全国で開催しています。2025年大阪・関西万博では、地域におけるSDGs達成や地域課題の解決、持続可能な社会の形成を促進するため、「地方創生SDGsフェス」を開催します。

SDGs後半戦に向けて —SDGsの現状とこれから—

国際連合地域開発センター(UNCRD)
研究員

浦上 奈々



UNCRDは名古屋に拠点を置き、国内自治体のSDGs推進を支援し、その取組を日本のSDGsモデルとして世界に発信しています。日本におけるSDGsの認知率は「91.6%」と過去最高の水準の一方で、SDSNのSDGs達成度ランキングは167カ国中で18位と低下傾向にあります。本年9月には、ニューヨークの国連本部にて「未来サミット」が開催されました。成果文書として、『未来のための協定』、『グローバル・デジタル・コンパクト』、『将来世代に関する宣言』が採択されました。これからはSDGsの後半戦に向けて、現状の達成度を可視化し、現在の立ち位置や強み・弱みをステークホルダー間で共有し、その上で今までのアクションを見直すとともに、新たな技術・イノベーション・パートナーシップを活用することで「トランスフォーメーション」をもたらし、SDGs達成の加速化をめざしていきましょう。

各団体発表

[登壇順] 行政 企業・大学等 NPO等 ユース世代

- 1 株式会社ノビアス
- 2 兵庫県
- 3 特定非営利活動法人ディーセント・ファーム かしわら
- 4 滋賀レイクス
- 5 守口市(大阪府)
- 6 NPO法人こども夢教室
- 7 学校法人藍野大学
- 8 京都市(京都府)
- 9 NPO法人ノーサイド(あかりバンク)
- 10 エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社
- 11 田辺市(和歌山県)

- 12 一般社団法人 HOMEステーション
- 13 株式会社神防社
- 14 広陵町(奈良県)
- 15 京都超SDGsコンソーシアム
- 16 みまもりあいプロジェクト
- 17 滋賀県
- 18 ペガラジャパン合同会社
- 19 特定非営利活動法人Deep People
- 20 大阪府立水都国際中学校・高等学校
- 21 Abroad International School Osaka
- 22 沖縄県

1

株式会社ノビアス
代表取締役
井上 史之

栄養状態の可視化により
行動変容を促す

website

現在65歳以上の高齢者において約20%が低栄養素傾向にあり、ミネラル不足による関連疾患のリスクが高い状況です。当社では数本の毛髪から5大栄養素のひとつであるミネラル、有害金属摂取量を分析できる技術を開発し、ヘルスケア分野で健康保険に依存しない健康寿命の延伸をめざしています。自社商品の毛髪検査キット「MIME」は従来の検査方法と比較して半額以下のコスト、短期間での分析を可能としました。今後は栄養状態の可視化により健康意識を改革する動機付けを図っていきます。

2

兵庫県
企画部 SDGs推進課長
佐城 永修

中小企業のための「ひょうご産業SDGs
推進宣言事業・認証事業」

website

兵庫県では令和4年度より中小企業のSDGs宣言を登録・公表し、企業経営へのSDGs導入を促進してきました。兵庫県下において宣言されている企業数は3500社を超え、宣言企業には様々なインセンティブを付与し、認証制度によるステップアップを推進することで更なる活性化をめざしています。2025年度は大阪・関西万博を機に、県全体をバビリオンに見立て、地域の団体や企業が実施するSDGs体験型地域プログラムを認定・発信し、誘客を促進する「ひょうごフィールドバビリオン」を実施します。

3

特定非営利活動法人ディーセント・ファーム かしわら
理事長
植田 剛司

三方よしの
「大阪かしわら竹炭プロジェクト」

website

私たちは農業を通じて自立支援を行うNPO法人で、「すべての人のための生産的な仕事(ディーセント・ワーク)」を実現することを目的としています。大阪府柏原市周辺では放置竹林、間伐材が地域に数多く散逸し環境破壊の要因となっています。また、新型コロナウイルス感染症や物価高の影響により、生活困窮者の雇用状況や、障がい者の工賃の改善は依然として厳しい状況です。そこで、放置竹林を解消して竹炭(バイオ炭)を作ることにより、障がい者などの仕事づくりや土壌の改良・CO2削減に繋げるという三方よしのプロジェクトに取り組んでいます。

4

滋賀レイクス
取締役
澤井 智也

Lake up together
～今日より明日を素晴らしいものに～

website

滋賀レイクスは滋賀県初のプロスポーツクラブとして誕生しました。「びわ湖一周クリーンウォーク」「バスケットボール寄贈プロジェクト」などレイクスの取り組みがファン・ブースターにとつてのSDGsや地域貢献活動に参加するきっかけとなり、パートナー企業にとってはレイクスと共に取り組むことで社外へ自社の取り組みが波及・拡散しています。より多くのファン・ブースター、地域の皆様、パートナー企業の皆様と共にSDGsアクションに取り組むことで『今日より明日を素晴らしいものに』に変えていきます。

5



守口市（大阪府）
企画財政部 企画課 公民連携デスク 主幹

元永 直宏

「いつまでも住み続けたいまち守口」
の実現



website

守口市では企業・大学・市民・団体など多様な主体と連携し、「いつまでも住み続けたいまち守口」の実現をめざしています。市が抱える様々な課題を解決するため、複数企業との協業事業に積極的に取り組み、子育て支援や高齢者支援を推進してきました。また、企業・市民が一体となった守口市公民連携博覧会「守博（もりはく）feat.日本の食まつり」の開催により、守口市の賑わいを創出しています。これからも課題解決に向けて、多様な主体との連携を推進していきます。



6



NPO法人こども夢教室
代表理事

高内 佐和

子どもたちに、社会の「大切な一員」
であることを伝えたい！



website

様々な課題を抱えて学校への「行きにくさ」、社会での「生きにくさ」を感じている子どもたちに、社会の「大切な一員」であることを伝えたい、そして、選択肢のある人生を歩む力、生き抜く力を育むお手伝いをしたいと考えています。「どうせ無理」「どうせ出来ない」「どうせ私なんて」といった「ど・う・せ」のマイナス思考を、「だからこそ！」とポジティブに変える活動をしていきます。小学校の家庭科室での朝ごはんを始めとした不登校の未然防止、当事者への対応、子どもを取り巻く環境の整備の三本の柱で取り組んでおり、偏見のない、お互いを思いやれる優しい社会づくりをめざします。



11



田辺市（和歌山県）
企画部 企画広報課 企画調整係 主査

栗原 孝彰

地域にコミットする
ローカルイノベーターと関係人口づくり



website

田辺市は、CSV（共通価値の創造）の視点から、地域の課題解決と企業の営利活動との共通項を探し出し、本業を生かしてできるビジネスモデルの創出を通じてローカルイノベーターを育てる「たなべ未来創造塾」で、地域の未来を担う若い人材を育成しています。さらに、当塾修了生を核として、「熊野リボーンプロジェクト」や「ことこらぼ」などを通じて創出された地域にコミットする関係人口との共創により、里山の再生や熊野古道の保全、ビジネスモデルのブラッシュアップなど、持続可能な「熊野」の形成に向けて取り組んでいます。



12



一般社団法人 HOMEステーション
代表理事 / 理事

南 延夫/福住 晴風

子どもたちに「豊かな関係性」を



website

私たちは、子ども・若者が「豊かな関係性」の中で、自分らしく成長できる地域づくりをめざしています。頼れる人が見つけれないときには、私たちが第三の居場所になり、さまざまな人との関係性を紡ぎます。色々な大人や中高生との交流ができ、家庭や学校に困難がある子も気軽に立ち寄れる場、こどもの声に耳を傾け、こどもを見守り、状況に応じて行政や専門機関につなげる場、またこどもの挑戦を後押しするための居場所として自分らしく成長できる育みをお手伝いしています。



7



学校法人藍野大学
法人事務局 総務センター長

岡山 達也

食品ロスゼロを合言葉に
地球環境と子供たちの未来を守りたい



website

学校法人藍野大学では人に最も身近な「食」に注目し、「食品ロス削減」に力を入れています。「食品ロス＝もったいない」は勿論のこと、私たちが直面するリスク「食品の焼却・埋立による温暖化への影響」、「気候変動による将来的な食物を作る国や地域が減少していく可能性」、「まだ食べられる食品（食品ロス）の処理に税金（一部）が使われていること」を意識し、学生と共に様々な取り組みを通して、食品ロス削減に取り組んでいます。世界規模で地球環境の悪化が進んでおり、将来を担う子供たちの負担を軽減するための行動力が今こそ必要です。



8



京都市（京都府）
総合企画局 総合政策室 SDGs推進係長

松岡 恒平

「自分ごと」「みんなごと」としての取組推進！
更なる「連携」でSDGs達成につなげよう



website

京都市では「きょうとSDGsネットワーク」として、公と民が一体となりオール京都でSDGsを強力に推進していく取り組みを行っています。また、公民連携プラットフォーム「KYOTO CITY OPEN LABO」として行政×企業のリソースを持ち寄り、新たなサービスの創出・実装にトライアルする取り組みも行っています。多様な主体との連携が重要と考え、「自分ごと」「みんなごと」として取組を推進しつつ、更なる「連携」を推進することで、SDGs達成に向けた行動変容を促していきます。



13



株式会社神防社
取締役副社長

並里 麻依

KOBOGIRLプロジェクト
女性だけのメンテナンスチーム



website

KOBOGIRLプロジェクトは、現場の仕事に携わる女性の働き方を応援しながら、取り組み自体を強みとして事業にプラスに活かしていく女性だけのメンテナンスチームです。働く者の負担軽減に加え、夜間立会など、依頼側の負担も小さくする取り組みとなっており、結果、女性社員数の増加にもつながりました。他にも、社会貢献型災害用携帯トイレ「モラスマイ」の開発、里山保全をはかり、中山間地域の関係人口を増やす循環型の開発プロジェクト「KOBObut」など、多彩で持続性のある活動を行っています。



14



広陵町（奈良県）
企画総務部 総合政策課 主任

岡崎 祐樹

SDGs取組診断ツール導入で
達成状況を数値化



website

広陵町は令和4年度からSDGs取組診断ツール「Tsumugi@」を導入し、部署毎の取組状況、経年変化、17のゴール毎の達成状況を把握しています。「広陵町第5次総合計画」においては、取組施策とSDGsを関連付け、SDGsと総合計画双方の取組状況の把握により、事業の推進、SDGsの取組推進を図っています。また、公共施設の適正管理にも積極的に取り組んでおり、令和3年度以降の公共施設においてはESCO事業に取り組み、効果的な公共施設維持管理、照明のLED化などエネルギー使用量の削減に繋げています。



9



NPO法人ノーサイド（あかりバンク）
あかりバンク事務局長

西谷 美智子

在宅で、夜の介護を必要とする病児と
そのご家族に、手作りのあかりを届ける



website

あかりバンクは、夜間介護の負担を軽減するために、手作りのあかりを届ける活動をしています。天井の明るい照明を見続けることは、睡眠を妨げる「ストレス照明」となっており、「介護照明」「健康照明」という光環境の重要性、夜間の介護がしやすくなる環境の作り方を情報発信しています。子ども達の描いた絵をあかりにするなど、誰もが参加し、あかり作りを楽しみ、自分にあった照明環境を工夫できるようになることをめざしています。



10



エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社
経営企画室 サステナビリティ推進部長

西田 哲也

地域とともに未来をつなぐ
地域内における循環型社会づくり



website

当社は、一番生活者に近い立場として地域の事業者の方々とは勿論、生活者もパートナーとして、地域内における循環型社会づくり「Tsugu.」を掲げています。一緒に目標を持ってできる「ちょっとした共通体験」を日常の生活の中に創り出し、共に考え、アクションを起こしていく、「目に見える」「手の届く」「地域サイズにあった」活動を大切にしています。2022年からはじまった「Tsugu.」も共感の輪が連鎖し拡がり続け、今後も新しいパートナーと新たな物語を創っていきます。



15



京都超SDGsコンソーシアム事務局

河村 翔

「ごみゼロ」アプリで
持続可能な社会を実現



website

プラスチックごみの社会課題は世界共通の課題です。企業・行政・個人がこの課題について、考えるキッカケが必要であり、その機運を促すため、ごみの情報を簡単に登録できる「ごみゼロ」アプリをリリースしました。このアプリは、「ごみ情報登録の簡易化」「活動の見える化」「清掃活動団体の活動をサポート」の機能があり、みなさんの活動を記録し、活動を持続するためのコミュニケーションツールです。2025年大阪・関西万博のレガシーの一環として、ごみゼロに向け多様なプレイヤーを巻き込んだ共創に取り組んでいきます。



16



みまもりあいプロジェクト
代表理事

高原 達也

「地域共生支援アプリ」がめざす
「ひとりでもひとりぽちにしない地域の姿」



website

互助をICTがサポートする発想で生まれたアプリに、認知症当事者やご家族が使える音声SNS機能を、2023年に追加しました。先輩当事者・ご家族・支援団体が経験してきた声・体験・ノウハウ・知恵を11番組500エピソードに収録し、聴くことができ、また地域・商店会や居場所等と巡り会おうための声・マップ情報を約60大学・団体と集め、「心を満たして、地域と繋がり合う環境」を創りました。2025年から多文化共生をめざして、74か国語ビジネス翻訳（文字・音声自動翻訳＋対面同時通訳）を追加し、言葉の壁をなくします。



19



特定非営利活動法人Deep People
理事長

牧 文彦

関西SDGsユースアクション



website

「関西SDGsユースアクション」は、毎年、若者からSDGs達成に向けたアクションやアイデアを募集しています。また、企業や団体等とパートナーシップを組み、応募されたアクションを広げたり、アイデアを実現するサポートを行っています。



20



大阪府立水都国際中学校・高等学校

井村 笑咲/上原 雪月香
中田 衣咲/伊藤 朔乃

開発途上国の小学生の
基本的計算能力向上



website

私たちは、途上国の小学生の計算能力向上のために、計算カード再利用モデルの構築をめざしています。ケニア、ナミビア、ザンビアの小学生に計算能力テストを実施したところ、繰り上がり・繰り下がりのある計算の能力が低いことがわかりました。そこで、日本の小学校で使用されている計算カードで、計算練習不足を解消すれば計算能力は向上すると考え、検証を行った結果、正答数は大幅に増加しました。計算カードは紙を消費せず何度も繰り返し使用できるのが特徴で、大阪市内の小学校から不要になったものを収集しています。



17



滋賀県
理事員（琵琶湖政策・MLGs推進担当）

三和 伸彦

Mother Lake Goals (MLGs)
の挑戦



website

琵琶湖版のSDGsであるMLGsは、SDGsができるずっと前、2011年度から毎年開催してきた「マザーレイクフォーラム・びわコミ会議」の参加者による「びわ湖との約束」をもとに、13のゴールを設定したものです。つまり、MLGsは、「約束」という自分ごとからボトムアップでつくったゴールであり、暮らしからはちょっと遠く感じるSDGsと私たちの取組との間に置く身近な目標です。「行動変動を促す」というより、みんながやりたいことを「そっと後押しする」のが私たちの役目です。



Mother Lake Goals
変えよう、あなたと私たち

18



ペガラジャパン合同会社
代表社員

市原 俊亮

AIとドローンで
ジンバブエの穀物被害解決に挑む！



website

温室効果ガスによって引き起こされた地球温暖化、異常気象の影響で異常繁殖するようになったケレア鳥は、アフリカ全土に約15億匹生息していると言われています。私たちペガラジャパンは、ドローンとAIを活用してこの鳥を畑から追い払うサービスを国連開発計画と共同で開発しています。このサービスにより、ジンバブエの農村に暮らす人々が負担となっている早朝から夕方過ぎまでの人力による追い払い作業を軽減します。また今後も、技術を使った社会課題の解決に取り組んでいきます。



21



Abroad International School Osaka

稲見 遥

ジェンダーバイアスに気づこう！
親子で学ぶディスカッションカード



website

私は青が好きなのですが、女の子はピンクが好き、男の子は戦隊モノが好き等という思い込みがあることに驚くことがあります。そのようなジェンダーバイアスについて大学の先生にインタビューを行い、日本の子供は世界的に見ても漫画からジェンダーバイアスの影響を受けやすいことや、ジェンダーバイアスはものの見え方や将来にも影響を与えることを知りました。そこで、ジェンダーバイアスにハッと気づけるディスカッションカードを作成しました。このカードがジェンダーバイアスに気づくきっかけとなり、日本や世界でジェンダー平等が実現して欲しいと思っています。



22



沖縄県
知事

玉城 デニー

SDGs全国フォーラム2024沖縄



website

沖縄県では令和6年12月21日（土）に、SDGsの推進による地域課題の解決や地方創生の実現、SDGsに関する先行事例の共有、官民連携などのパートナーシップの促進をめざし、「SDGs全国フォーラム2024沖縄」を開催いたします。「SDGs全国フォーラム2024沖縄」を通じて、皆様とともにSDGsの今後の方向性を一緒に考え、SDGsの達成に向けた様々な具体的な行動やパートナーシップの形成につなげる機会としたいと考えております。

